

より良い公園 模型や絵で

市現代美術館 崇城大生が展覧会



崇城大芸術学部デザイン学科の学生が、公園利活用についてさまざまなアイデアを提案した展覧会

＝熊本市中央区

回は市からの要望で公園をテーマにした。13年の学生約140人が昨年10月から、16グループに分かれて企画や模型作りなどに取り組んできた。

防犯の観点から死角を少なくし、遊ぶ子どもを見守りやすくした公園の模型や、ごみのポイ捨て禁止などのマナーを漫画調で訴える看板など16点を展示。災害時の避難場所として活用できる遊具の設置や、公園内のキッチンカーでの朝食提供なども提案。動画やイラストで分かりやすく可視化した。

市公園課は「行政の視点では気付かない柔軟な提案が目立つ。できそうなものは実現につなげたい」と話す。

午前10時～午後8時。入場無料。火曜と2月24日休館（2月23日と3月2日は開館）。

（隅川俊彦）

崇城大（熊本市西区）の芸術学部デザイン学科生が、市内の公園のより良い利活用策などを提案する展覧会「み

らいデザイン kuma mototoshi:くまもの公園」が3日、同市中央区の市現代美術館で始まった。3月7日

まで。同科主催。学生らが地域と連携して実践的デザインに取り組む地域プロジェクト授業の一環で、今